

広 報

家畜衛生ますだ

令和4年12月

発行・編集 益田家畜保健衛生所（西部農林水産振興センター益田家畜衛生部）

〒698-0007 益田市昭和町13-1 益田合同庁舎1階

TEL 0856-31-9730 FAX 0856-31-9739

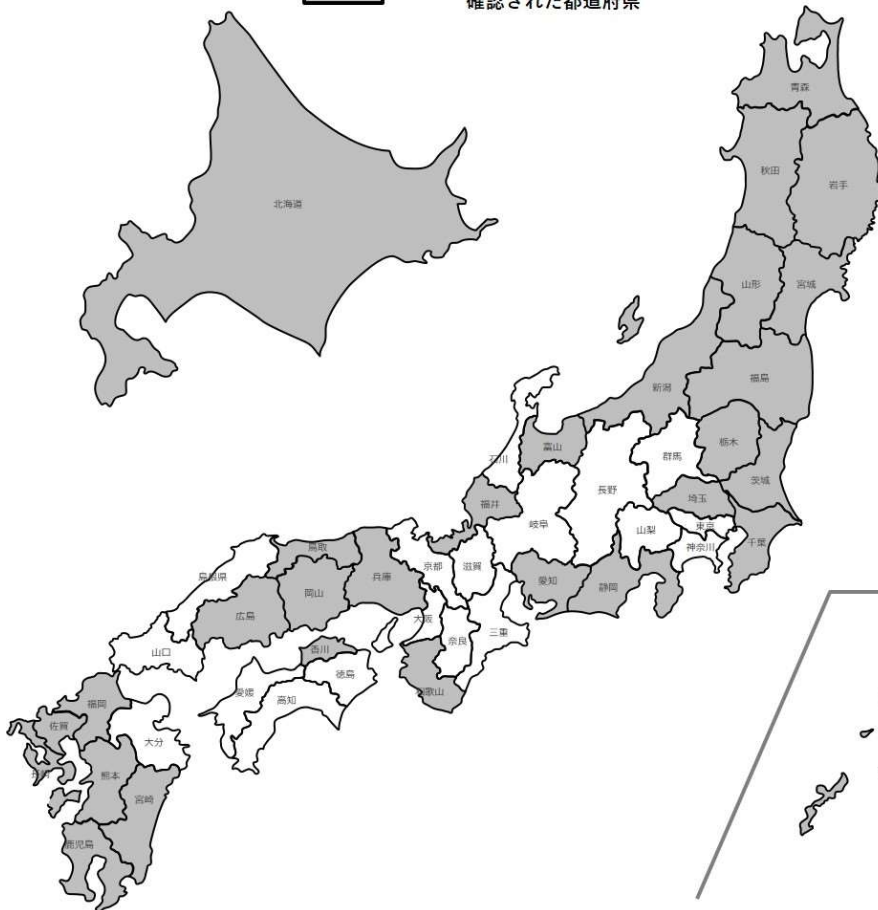
高病原性鳥インフルエンザの脅威が近づいています！

今シーズン、高病原性鳥インフルエンザが全国で猛威を振るっています。令和4年9月25日、神奈川県で回収された死亡野鳥から昨年より1か月以上早く高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、10月28日には岡山県と北海道の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生しました。12月22日現在、養鶏場での発生は21の道府県で47事例確認されており、殺処分羽数は約714万羽に上ります。すでに令和3年度シーズンの殺処分羽数（約189万羽）を大きく上回っているだけでなく、過去最多の約987万羽が殺処分となった令和2年度シーズンを上回るペースとなっています。家きん飼養者の皆様には、まだまだ気の抜けないシーズンが続きますが、改めて飼養衛生管理基準の遵守徹底をお願いいたします。

養鶏場等及び野鳥における 高病原性鳥インフルエンザウイルス検出状況

（令和4年12月22日現在）

…養鶏場等及び野鳥で
確認された都道府県



養鶏場及び飼養鳥

22道県 52事例 約714万羽

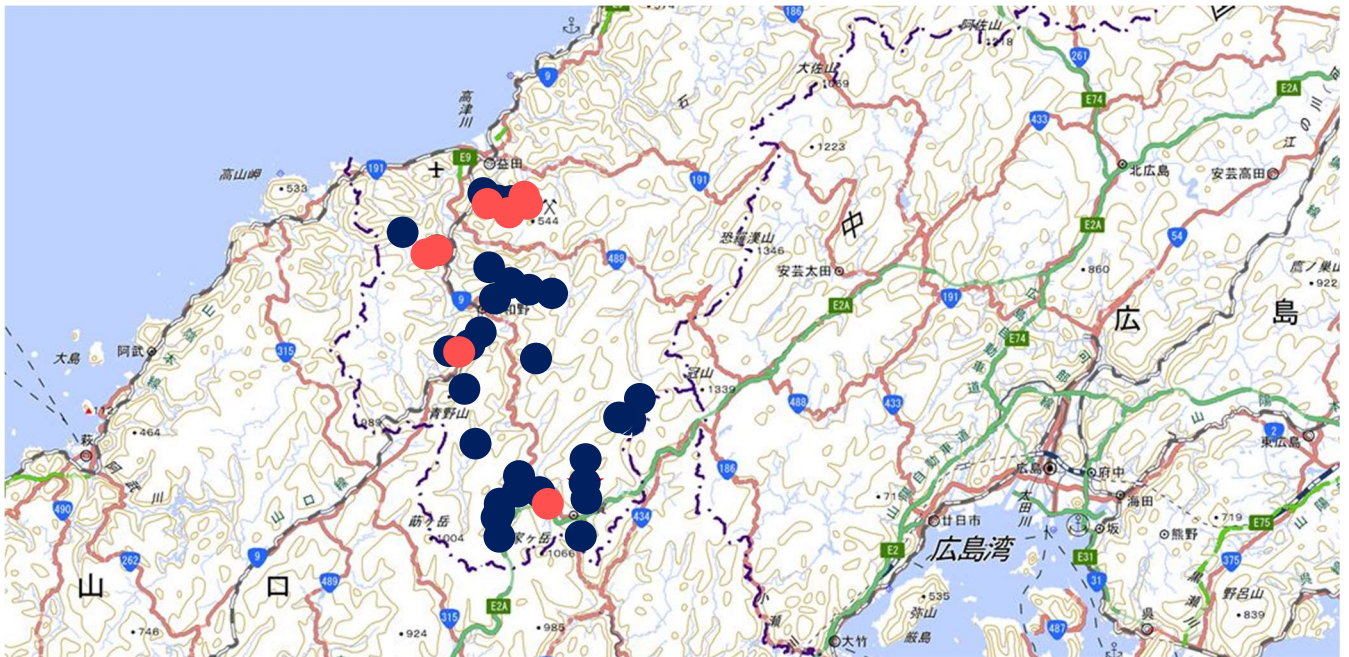


野鳥

20道県 123事例

野生イノシシにおける豚熱の発生状況について

令和4年5月19日、吉賀町で発見された野生死亡イノシシから、島根県内初の豚熱感染が確認されて以降、野生イノシシでの感染が拡大しており、令和4年12月22日現在、37例の感染が確認されています。野生死亡（衰弱）イノシシを発見した際には、速やかに益田家畜保健衛生所（0856-31-9730）または、西部農林水産振興センター益田事務所（林業普及第二課 0856-31-9572：野生鳥獣担当）までご連絡ください。



● 豚熱陽性イノシシ発見地点 (R4.5~R4.11) ● 豚熱陽性イノシシ発見地点 (R4.12)

西部地区子牛共進会で田原牧場が最優秀賞を受賞！

令和4年10月28日に、西部家畜市場において令和4年度西部地区子牛共進会が開催され、計19頭の出品があり、下記の牛が優秀な成績を納めました。各賞を受賞された生産者のみなさま、おめでとうございます！！

内容	住所	生産者	名号
最優秀賞	益田市	田原牧場	はなめ24
優秀賞次席	津和野町	京村牧場	すずふじ
優秀賞3席	益田市	佐々木恵美	つぼみ
優秀賞4席	浜田市	佐々木祥二	はるくに5

<授賞一覧>



<最優秀賞の「はなめ24」号と田原牧場のみなさん>

異常産ワクチン接種とサーベイランス結果について

蚊などの吸血昆虫が媒介するウイルス（アルボウイルス）感染症のうち、アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病などは、牛の異常産の原因となることが知られています。その他にもピートンウイルスやサシュペリウイルス等の関与が疑われる異常産も報告されています。これらのウイルス感染症の発生には季節性があり、予防には異常産ワクチンが有効です。4～5月の間に確実なワクチン接種をよろしくお願ひします。

また、島根県ではアルボウイルスの動向を調査するため、毎年、複数の農場に協力していただき採血を行っていますが、**今年度は県内全域でいずれのウイルスも動きが認められませんでした**。調査にご協力いただいた農場の皆さまには、この場を借りて感謝申し上げます。

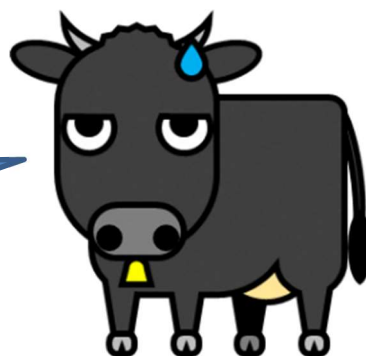
冬場の子牛の管理について

今年も寒さの厳しい季節となりました。子牛の寒さ対策は大丈夫でしょうか？子牛は体が小さく、体脂肪が少ないため、成牛と比べて寒さに弱いと言われています。そのため寒冷ストレスにより、発育不良や下痢などを起こすことがあります。寒冷対策には安価に行えるものもあるので、自身の農場にあった寒さ対策を取り入れ、寒い冬を乗り切りましょう！！

〈寒冷対策の例〉

- ・ ヒーターやカーフジャケットなどを用いて暖かい環境を整えましょう！
- ・ 保温機を用いることにより、体温低下を効率的に防ぐことができます！
- ・ 敷料は乾燥している状態を保ちましょう！
- ・ 牛舎の換気も忘れずに行いましょう！

寒さ対策で牛舎を密閉状態にし、換気が不十分になると、呼吸器病が発生することも....



保温機



カーフジャケット、ネックウォーマーを着ている子牛

牛の繁殖コラム（第2回）

今回は、繁殖の治療にも活用する**ホルモン**について紹介したいと思います。
牛の繁殖に関連するホルモンは様々な種類があり、お互いに複雑に影響し合っています。下記に主要なものをまとめてみました。

< **GnRH** > 通称：コンセラル等

脳から分泌され繁殖に関する様々な調節を行う。

重要なのは多量に分泌されたときに**排卵を引き起こす**作用。

< **E₂ (エストロジェン)** > 通称：エストラジオール等

発情を引き起こすホルモン。卵胞から分泌される。

< **P₄ (プロジェステロン)** > CIDR (シダー、いわゆるトンボ) に染みこませている

妊娠を維持するためのホルモン。黄体から分泌される。

< **PGF₂α (プロスタグランジンF₂α)** > 通称：PG、プロナルゴン等

黄体を退行させるホルモン。子宮から分泌される。

前回解説した発情周期に沿って、それぞれの役割を解説していきます。
卵巣に黄体がある間は、**P₄**が脳からの**GnRH**の分泌を抑制しています。**GnRH**は卵胞の発育にも関わっており、抑制されることで卵胞は十分に育ちきらず、排卵せずに消失していきます（**図1**）。

受胎していない場合、発情後18日頃に子宮から**PGF₂α**が分泌されます（**図2右側**）。これによって**黄体が退行**します。

※**PGF₂α**は受胎している場合には分泌されないため、黄体は妊娠黄体として残り、**P₄**を分泌し続けて妊娠を維持します。

黄体がなくなると、**GnRH**の抑制がなくなり、卵胞が大きく発育出来るようになります（**図2上～中段**）。大きく発育した卵胞は**E₂**を多量に分泌するようになり、**発情**します。

発情するほどの高濃度の**E₂**が分泌されると、脳へ影響して多量の**GnRH**が分泌され、これによって**排卵**が引き起こされます（**図2中～下段**）。また、**GnRH**は排卵後の卵胞の膜を黄体へ変化させる作用も調節しています。

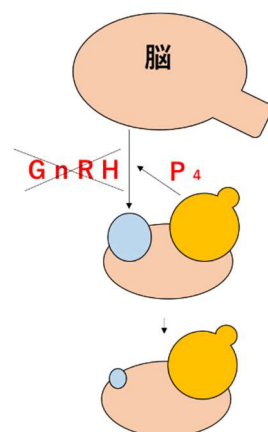


図1 黄体が卵胞の発育を抑制

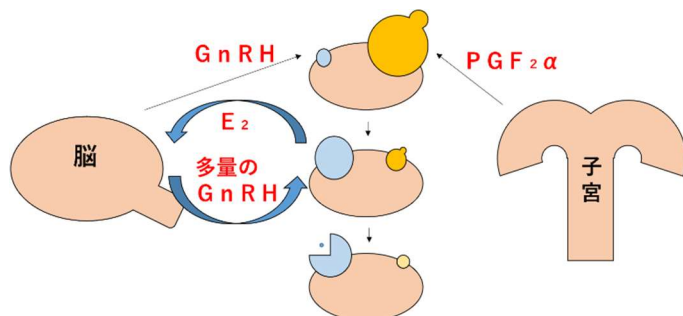


図2
前回の発情から18～21日の時期
黄体の退行・卵胞の発育・発情及び排卵

こうしたホルモンによって繁殖が制御されているということは、これらの**ホルモンを薬品として投与することで繁殖周期を制御**できるということでもあります。次回は、薬品としてのホルモンの利用方法についてご紹介します。